

北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

部会名 令和7年度第4回サービス向上部会

開催日時 令和8年1月21日(水)10:00～11:30

参加者所属機関名等

北信保健福祉事務所福祉課、中野市社協指定訪問介護事業所、
飯山市社協ヘルパーステーションゆきつばき、山ノ内町社協指定訪問介護事業所、
木島平村社協指定訪問介護事業所、野沢温泉村社協指定訪問介護事業所、栄村社協指定訪問介護事業所、
北信圏域障害者生活支援センター、相談支援事業所たむろ、訪問介護たむろ、未来工房つむぎ、青りんご、
いこいの里、ケアホーム希望、のぞみの郷高社、NPO 法人ここから、常岩の里ながみね、傳習館、
一般社団法人きぼう、中野市障がい児者相談支援事業所ふたば、むぎとはな、
ながでんハートネット中野ポルカ、ながでんハートネットメゾふおるて、ひふみ中野たかおか教室、
ひふみ信州中野教室、ながでんハートネットカラー's 中野、北信圏域障害者生活支援センター、
児童発達支援センターみらいく、北信圏域障害者総合相談支援センター

会議で話し合われた事項

1 開会

2 協議事項

(1) 今年度の研修会について

部会長より、今年度実施した研修会の振り返りについて報告があった。

- 研修会については、参加者から概ね好評であり、特に若手職員から多様な意見や率直な声を聞くことができた。
- グループワークでは、「先輩やサービス管理責任者が忙しそうで声をかけづらい」「専門用語が多く質問をためらう」「一人での訪問支援や判断への不安」「支援の基準や成長の目安が分かりにくい」「虐待に当たらないか不安」「家族対応や上司・関係機関との関係性に悩む」等の意見が出された。
- これらの現場の声は別紙にまとめ、今後の部会活動の参考とすることを確認した。
- 来年度に向けては、現場職員の声を踏まえ、管理者向け研修会の企画につなげていく方向性が示された。

(2) 各WG・NWに分かれての検討／振り返りと来年度に向けて（全体共有）

① 居宅介護分野WG

- 今年度は、圏域共通のアセスメントシートの作成に取り組み、意見聴取や実際の活用経過を踏まえながら修正を重ねてきた。
- 今後、最終調整を行い、完成とする方向で確認した。
- 来年度は、完成したアセスメントシートの活用を進めるとともに、相談支援専門員との連携について意見交換を行っていききたいとの意見があった。
- グループ振り返りでは、アセスメント表の実施と振り返り、基本シートとしての活用、通院時アセスメントや毎月予定表の工夫、相談支援専門員との連携の必要性が挙げられた。来年度は、アセスメント表と計画書をもとにした事例検討や、サービス利用計画と支援の見分けを含めた意見交換を行いたいとの方向が共有された。

② 生活支援力向上 WG

- 研修会を中心に2年間活動してきたが、支援力の向上にどこまでつながったかについては課題が残るとの振り返りがあった。
- グループホーム事業所や地域関係者が、圏域内の各グループホームの役割を理解したうえで、目的や支援内容を検討していく必要があるとの意見が出された。
- 来年度は、相談支援専門員が部会に参画する予定であることから、相談支援専門員のグループホームへの理解促進と、グループホーム側が自事業所の地域での役割を考える機会の双方を確保していくことを目指す。
- 具体的には、事業所見学会の開催や、各グループホームを会場とした会議の実施等が提案され、暮らしの場連絡会の延長線上としての位置づけも含め、今後検討していくこととした。

③ 児童発達支援ネットワーク

- 今年度は、放課後等デイサービス事業所一覧表の作成に取り組み、完成とした。
- 来年度については、新規事業所の参入も見込まれることから、一覧表の追加・更新を検討していく必要があることを確認した。
- 人材育成の観点では、利用者支援を行うだけでなく、支援者の教育・育成も重要であること、サービス利用にあたっての目的確認やサービス終了を見据えた支援のあり方について、好事例等を共有・検討していきたいとの意見があった。
- 振り返りでは、各事業所のポジションや役割、人材不足、サービス提供の質の差、保育・教育との連携、卒業に向けた動き、家族支援、小学校とのつなぎ、地域移行や将来像の共有などが課題として挙げられた。

(3) 相談支援に関するワーキンググループの新設について

部会長より説明があった。

- 市町村課題検討 WG および相談支援等研究会から、北信地域障がい福祉自立支援協議会内における継続的な相談支援体制の構築・強化を目的として、サービス向上部会内に新たに相談支援専門員が集まるグループを設置することについて検討依頼があった。
- これを受け、運営委員会において検討を行ってきた経過について説明があった。
- 続いて富井相談員より、相談支援専門員には個別支援にとどまらず、地域づくりを担い、地域課題を適切な場へ届けていく役割があること、現在は任意組織として「相談支援専門員ネットワーク会議」を開催しているが、今後はその位置づけを整理し、本部会内の取組として位置づけたいとの説明があった。
- 部会内においても、各 WG・NW から相談支援専門員との連携が課題として挙げられている実情を踏まえ、組織として部会内に位置づけ、編制していく方向で進めることを確認した。
- 今後の具体的な内容や進め方については、引き続き運営委員会で検討することとした。
- なお、資料では、令和8年度のサービス向上部会の中に「相談支援専門員 NW」を新設し、市町村相談支援等研究会機能の移管、任意組織である相談支援専門員ネットワーク会議の統合、各部会や市町村課題検討 WG との接続、主任相談支援専門員の育成・役割明確化、地域生活支援拠点等に関する事項などを担う構成が示された。

(4) その他

次年度の役員等について、以下のとおり共有があった。

- 部会長：居宅介護事業所たむろ（居宅介護分野 WG）
- 副部会長：のぞみの郷高社（生活支援力向上 WG）
- 児童発達支援ネットワークリーダー：ひふみたかおか教室
- 相談支援専門員グループ：未定